

わたしたちは未来を描けるのか ～環境法・参加と公開・裁判所の役割～

日 時：2020年11月21日（土）13時～16時

開催方式：Zoomウェビナーを利用したオンライン開催

申込方法：

参加をご希望の方は、下記URL又はQRコードから、
11月13日（金）までにお申し込みください。

<https://form.gooker.jp/Q/auto/ja/sympomiraiizen/kougai50/>



気候危機や海洋プラスチックごみ問題などの環境問題を解決するため、脱石油石炭へ向けた国際的な取組が始まっています。しかし、日本ではいまだに石炭火力発電が推進され、使い捨てプラスチック製品の製造の規制もなく、こうした政策に市民が異議を唱えても適切に配慮される仕組みがありません。裁判所は、福島原発事故から時が経つにつれて原発再稼働に協力する判断を示すようになるなど、環境問題の予防・解決する役割を十分には果たせていません。

SDGsの目標年である2030年まであと10年。課題を解決し持続可能な未来を描くために、どのようにして舵を切るのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

第1部 2020年、解決されるべき課題

基調報告「気候危機と国内外のエネルギー政策」

大島 堅一 氏（龍谷大学政策学部教授、原子力市民委員会座長）

基調報告「プラスチックを「燃やす」日本、「減らす」欧州」

高田 秀重 氏（東京農工大学農学部環境資源科学科教授）

基調講演「多様な主体が未来を描くために SDGsと参加原則」

大久保 規子 氏（大阪大学大学院法学研究科教授、環境省中央環境審議会委員）

参加費無料！
事前申込制

第2部 未来を描くために

特別報告「環境保全がビジネスを営む理由になる時代」

佐藤 潤一 氏（元 パタゴニア日本支社環境・社会部門ディレクター）

報告「気候の危機に訴訟で立ち向かう 国内外の動き」

浅岡 美恵（弁護士、日本弁護士連合会公害対策・環境保全委員会委員）

報告「日本の環境訴訟の発展と課題」

小島 延夫（弁護士、日本弁護士連合会公害対策・環境保全委員会委員）

パネルディスカッション「どのようにして舵を切るのか」

樋口 英明 氏（元裁判官）、大島 堅一 氏、高田 秀重 氏、大久保 規子 氏、佐藤 潤一 氏

コーディネーター：小島 延夫

※参加方法等は、開催日が近付きましたら、お申し込みされた方宛てに事務局からメールでご案内いたします。

【個人情報の取扱いについて】

ご提供いただいた個人情報は、日本弁護士連合会のプライバシーポリシーに従い厳重に管理致します。また、この個人情報に基づき、日本弁護士連合会もしくは日本弁護士連合会が委託した第三者より、シンポジウム等のイベントの開催案内、書籍のご案内その他当連合会が益であると判断する情報をご案内させていただくことがあります。

なお、個人情報は、統計的に処理・分析し、その結果を個人が特定されないような状態で公表することがあります。